

## アニメーション映画『プリキュア』における多様性の描写

飯高 みの利

子供向け娯楽作品は、幼児に強い影響を与えるメディアであると指摘されている。また、近年、子供向け娯楽作品では、「ジェンダー」や「多様性」に関する描写が変化してきている。その中でも、アニメーションの『プリキュア』シリーズは、2018年に行われた「お子さまの好きなキャラクターに関する意識調査」では、女子幼児において1位となっており、強い影響力を持つことが示されている。また、2019年の「第5回国際女性会議 WAW!」では、「ジェンダーや価値観の多様性」に配慮した作品として高く評価された。これらのことから、『プリキュア』は、子供向け娯楽作品における多様性の描写における典型例と考えられる。しかし、その描写がどのようなものであるかは詳しく明らかになっていなかった。

そこで、本研究は、アニメーション映画『プリキュア』をケース・スタディとし、子供向け娯楽作品における多様性に関する描写について、その様相を具体的に明らかにすることを目的として、調査と分析を行った。

調査対象は2005年から2019年までに上映された映画『プリキュア』シリーズ全16作品とした。調査方法は、藤田(1996)の方法を援用し、男女キャラクターの属性や主要キャラクターの相互関係を調査し、分析した。また、上瀬、佐々木(2016)の方法を援用し、主要キャラクターが話している場面、意見の食い違いが起きた場面、仲間と共に戦う場面と一人で戦う場面、それぞれの時間量と比率などを計測し、分析した。さらに、衣装、髪型など外見的特徴についても調査と分析を行なった。

その結果、制作時期が後になるほど、主要キャラクターの年齢、外見的特徴、作品内での位置づけが多様化すること、また、意見の対立の描写が減少することが明らかになり、その一方、すべての期間を通じて、恋愛に関する描写や男性キャラクターによる援助行動は少ないことが明らかになった。

これらのことから、アニメーション映画『プリキュア』シリーズは、時期が後になるにつれ、多様な女性像を描く作品へと変化しているといえる。また、主要キャラクターの人間関係は、「対立」から「調和」へと描写の重点が変化しているといえる。さらに、恋愛は重視せず主体的に行動する女性を描くという特徴を持つといえる。

本研究は映画『プリキュア』シリーズのみを調査対象とした限定的なものである。しかし、多様性の描写が高く評価されながらも、その様相が明らかではなかった『プリキュア』という作品について、多様化の進展を具体的な事象に基づいて明らかにしたこと、また、キャラクターの人間関係における対立から調和への変容を明らかにしたことは、本研究の成果であるといえる。本研究の結果は、今後、他の子供向け娯楽作品との比較研究などに適用することにより、さらに発展の可能性があると考えられる。

(指導教員 辻 泰明)